

いぐだたみ

No. 162
2010年11月

国民読書年記念企画として、7月24日に本県出身の芥川賞作家である林京子氏をお迎えして、第20回県立長崎図書館講座を開催しました。林氏は自身の被爆体験をもとに書いた『祭りの場』で第73回芥川賞を受賞しましたが、その後も女流文学賞、川端康成文学賞、谷崎潤一郎賞など数々の大きな文学賞を受賞されています。

「みずから語る林京子の文学世界～長崎の原爆文学と想像力～」と題して、詩人で活水女子大学教授の田中俊廣氏との対談をとおして、『祭りの場』『ギヤマンビードロ』『長い時間をかけた人間の経験』『上海』などを中心に、200名を超える受講者と共に林氏の作品を読み直しながら、ご自身の、そして長崎の原爆文学の世界を辿りました。



第20回県立長崎図書館講座



受講者からは、「林先生の生の話を一度聞いておきたかったので、良い機会だった。何より『生きていて良かった』という言葉聞いて感動した。」「素晴らしかったです。感無量です。改めて再読したいと思いました。よくぞこの時期にご来崎くださり感謝です。」など、本館講堂を埋め尽くした受講者の大きな満足が伝わる感想が寄せられました。

林氏には講座に先立ち、長崎ゆかりの文学展第2回企画展「原爆文学展」を訪れ、県立高女の同級生である『雅子斃れず』の著者石田雅子氏や、福田須磨子氏の直筆原稿等もご覧いただきました。

今回の来崎について、林氏は「ふるさと長崎はとてもあたたかかった。」とおっしゃいました。「ふるさと長崎にて 林京子」と記帳された芳名録は、現在本館4階郷土資料展示室の「シリーズ長崎文学散歩」で展示しています。

もくじ

- ◎ 長崎ゆかりの文学展 P 2
- ◎ 所蔵資料(児童書)の紹介 P 2
- ◎ 県内図書館散歩② P 3
- ◎ 「龍馬伝の舞台幕末長崎」② P 3
- ◎ 図書館活用方法 P 4
- ◎ 第2回実務研修会 P 5
- ◎ ボランティア及び実習生等の声 P 5
- ◎ 県立長崎図書館100年のあゆみ② P 6
- ◎ 臨時休館のお知らせ、行事案内 P 6



で
人
ココロおっこ



龍馬伝

2010年は『国民読書年』



「長崎ゆかりの文学展」を4階郷土資料展示室にて開催しています



◎「第3回企画展『子どもたちに夢を～長崎の児童文学～』」

年間4回開催している「長崎ゆかりの文学展」の第3回企画展のテーマは「児童文学」です。未来を担う子どもたちが夢やあこがれをいただき、読書に親しむ契機となる児童文学は、子どもにとっても大人にとっても大切です。



直筆原稿

本県出身で児童文学にかかわる福田清人、おおえひで、太田大八、黒崎義介等の直筆原稿等当館所蔵の貴重資料や、子どもたちに読んでほしい刊本等を紹介しています。(12月26日(日)まで開催。)

◎「特別展『祝 柴田錬三郎賞受賞 吉田修一氏』」

本県出身の芥川賞作家である吉田修一氏は、本年10月、「横道世之介」で第23回柴田錬三郎賞を受賞されました。受賞作をはじめ、今秋映画化された「悪人」、「長崎乱楽坂」など本県を舞台とする作品も多く、その作家活動は郷土の誇りです。

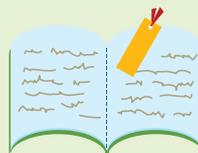


特別展

そこで、柴田錬三郎賞受賞を祝し、吉田氏の直筆色紙など当館所蔵関係資料を「特別展」として展示紹介しています。(12月26日(日)まで開催。)

所蔵児童資料の紹介 (珍しい絵本)

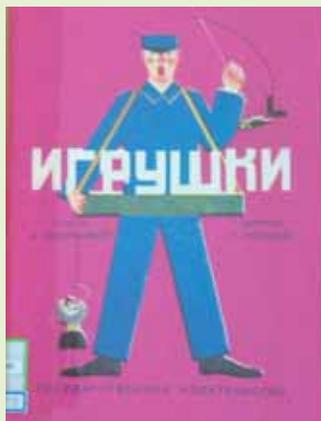
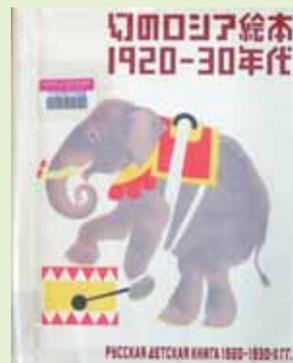
－「幻のロシア絵本 復刻シリーズ」と 「幻のロシア絵本 1920－1930年代」－



ロシア革命後のソビエト（現在はロシア）の芸術家たちは理想と希望にあふれ、他のヨーロッパの国々の人々も魅了する新しい絵本を生み出していきました。

しかし、それらの絵本達は、1930年頃からはじまったスターリンの粛清の嵐のために作者ともども流星のように消えていきました（正確に言えば消されていったのですが、生き残った人もその後の絵の作風がまったく別人ようになっていきます）。題名が「幻の・・・」とあるのは、作者まで消されたために二度と生み出すことができないという悲劇と、収集家よっての遺された奇跡を喜ぶ思いの両方がこめられているようです。

「幻のロシア絵本 1920－1930年代」（写真右上）はその誕生から消滅までの経緯を解説し、「復刻シリーズ」は代表作として10作品を復刻したものです。90年前の作品とは思えない斬新さとそれゆえに消されてしまった絵本達をこの世に遺したのは実は日本の画家達であったというのも驚きです。



復刻版の作品を見てみましょう。「郵便」（写真右下）は宛先人を追って一通の手紙が世界を一周するお話でアニメーション映画にもなりました。ロシア語が読めなくても大丈夫。リズムカルでユーモアあふれる日本語訳がその内容を伝えてくれます。そのほかマトリョーシカに代表される「おもちゃ」（写真左下）や炊事道具達の反乱を描いた「あわれなフェードラ」などロシア独特の風物も楽しめる「幻のロシア絵本」。

一度ご覧になってみませんか？（どちらも2004年淡交社刊）

もちろん、こども室で貸出しできますので、どうぞご利用ください。

シリーズ 県内図書館散歩②

—佐世保市立図書館—

県立長崎図書館では、県民の皆様が県内の図書館をより身近に親しみ易く感じていただき、最寄りの各市町立図書館を一層利用していただくため、「シリーズ県内図書館散歩」として、各市町立図書館から自己紹介をしていただいております。第2回目は佐世保市にあります「佐世保市立図書館」をご紹介します。



◎佐世保市立図書館から

佐世保市立図書館は平成6年に新館がオープンしましたが、旧館にはなかった「おはなしの部屋」を新設し、今日まで子どもの読書活動推進に力を注いできました。

特に、毎週土曜日に行っている「おはなし会」は旧館時代から30年以上続いており、質の高い読み語りを自負しております。

この他にも、平成18年度からは赤ちゃんを対象とした「いないいない ばあ」を、平成21年度からは2歳児から幼児を対象とした「とこ とこ とこ」を開始し、わらべ歌や手遊びを取り入れながら絵本に親しむきっかけづくりに努めております。これら2つのおはなし会はその後部屋を開放しており、保護者同士の交流の場としても好評を得ております。



おはなし会



いないいないばあ

シリーズ「大河ドラマ『龍馬伝』の舞台 幕末長崎」②

丸山花街と「龍馬伝」



寄稿者
長崎県参与 本馬貞夫氏

たね。
ところで、ドラマでは龍馬たち社中の面々が「花月」に行き、薩摩の西郷隆盛・小松帯刀・長州の高杉晋作・伊藤俊輔（博文）・井上聞多（馨）らの宴席に入り込むシーンがありました。その後薩長両藩が対決、一騒動。あんな大物が個々には来崎していても、長崎で一同に会することは史実としてありません。さすが大河ドラマです。

「龍馬伝」ではナレーター役の岩崎彌太郎が、丸山を料亭が集まった町と説明していましたが、無難違ひます。丸山は遊女町です。それも、江戸吉原、京の島原、大阪新町と並ぶ、当時屈指の遊女町でした。「京の女郎に、江戸のはりをもたせ、長崎の衣装をきせて、大阪の揚屋で遊ぶ」（「和唐珍解」というのが、想像上最高の遊びだったのです。

貿易都市長崎には、唐船・オランダ船によって高級織物がもたらされ、丸山遊女の衣裳は他の追随を許さない豪華なものでした。とりわけ正月八日に行われた丸山の絵踏に着的衣裳は豪華で（絵踏衣裳）、見物人が押し寄せてきたと伝えられます。「龍馬伝」でもこのシーンは見られます。

びっくりしたのは、芸子お元が実は潜伏キリシタンであるという設定でした。丸山社中を下ると大浦天主堂というのは愛嬌として（長崎でロケをしてもらいうる適当な情景がない）、ちょっと行き過ぎのような感じを受けましたが、NHKさんが長崎に配慮してくださっているのはよくわかりました。

図書館及び資料の

活用方法を紹介します!!

◎法律・判例を調べるには？

図書館には図書以外にも情報を探するのに便利なオンラインデータベース検索等があります、今回は法律や判例を調べたい時に便利な資料をご紹介します。

○オンラインデータベースで調べる

オンラインデータベースは当館に設置しています専用パソコンからキーワード、年月日等をいれると関係情報を瞬時に探しだせます。

・『日本法総合データベースLexisNexis JP』

日本法の判例・法令データベースです。判例数約24万件、判例解説約4万7千件、現行法令約7,800件を収録しており、改正に伴い随時更新されています。法律関連書誌・文献情報、法律関連の雑誌・書籍、裁判に使用する各種の書式も収録されています。



・『官報情報検索サービス』

官報は日本国が発行する新聞で、法令等を広報するために、ほぼ日刊で発行されています。法令のほかにも来年の秋分の日等の祝日の決定や皇室の外国訪問の日程・会社の破産・警察官の制服の規格・国家試験の合格者名など意外な記事があったりします。当館では1947年5月3日の日本国憲法施行日以降～当日発行分までの官報が検索できるサービスを導入しています。また印刷物としては明治以降の官報を所蔵しています。これとは別に自宅のパソコンから無料で発行後1ヶ月分の官報が閲覧・検索できる国立印刷局のホームページのサービスもあります。

・『新聞記事（郷土関係）見出し検索』

全国版のデータベースに掲載されない長崎県関係の判決を確認するためには、地元紙が俄然役に立ちます。当館ホームページの中でキーワード・見出しを入力すると長崎・西日本・朝日・毎日・読売新聞の郷土関係記事の見出しを2007年2月掲載分より検索ができます。



○印刷物（所蔵資料）で調べる。

・雑誌関係としては、『判例時報』（判例時報社）／『ジュリスト』（有斐閣）／『法学セミナー』（日本評論社）／『法律時報』（日本評論社）／『判例タイムズ』（判例タイムズ社）等が有用です。例えば『ジュリスト』は、「消費者判例百選」「労働法判例百選」のように、関係法令をテーマに100の重要判例を選択し要旨と解説で構成されてわかりやすい別冊も刊行しています。

・そのほか定番のものとしては、以下のものが挙げられます。

『現行日本法規』（ぎょうせい）：日本の法令のすべてを収録しています。（加除式）
『六法』：日本の主な法令を、利用目的により編集しています。判例付き六法や〇〇小六法など多様な形で出版されています。例えば「交通小六法」は法令に関する通知・規則も掲載され、調べやすい構成となっています。網羅的な六法としては王道の「六法全書」があり、法令としては1,000件程度が収録されています。廃止された法令を調べるときは『旧法令集』（有斐閣刊）が便利です。

『判例体系』（第一法規刊）：明治中期以降の判例について法体系別にまとめられており、関連判例がわかりやすい構成となっています。（加除式）



『ジュリスト』(有斐閣)



『現行日本法規』(ぎょうせい)

県内図書館職員による 第2回実務研修会を実施しました。

県内の各図書館では、多くの住民の方々の役に立つ図書館を目指して、利用者サービスの向上に努めています。そして、新収図書のご案内や行事のご案内など各図書館の様々な取り組みを、工夫を凝らした広報紙「図書館だより」を使ってお知らせするなど、より多くの方々に利用していただくための広報活動に努めています。



そこでよりよい広報誌を作成する技術を会得するべく、今年度第2回目の研修会（9月27日(月)の休館日を利用して実施）は「広報紙の作り方」と題して、長崎新聞社販売局読者ふれあい室長の金田英資氏を講師にお招きしてご講義いただきました。市町図書館（室）及び大学図書館職員から約80名の参加があり、広報紙づくりの基礎から応用まで、住民の方々に読みたいと思っただけの紙面づくりを学習しました。



図書館ボランティア・実習生等の声を紹介します。

■「折り紙教室」

ボランティア

大西 律子さん

毎月、最終日曜日の午後三時、「こんにちは」と元気にやって来る子、「やりたいけどちょっと恥ずかしいなあ」と、遠目で見ている子など始まりはさまざまですが、折り紙をしていくうちにすぐ打ち解けて、終わる頃にはみんなにここに顔で帰っていきます。

指先を使うと脳が活性化されると言われますが、それだけではなく、親子で折り紙をしている姿を見ると、楽しそうな会話や「おかあさん、ここはこんなだよ」と、子ども達から大人が教えられている姿などほほえましい光景が見られます。

折り紙は、年齢を問わず誰にでも簡単にでき、心まで安らげてくれる不思議で楽しいものです。一度、折り紙教室を覗いてみてください。

（「折り紙教室」は、平成9年から始まった子ども向けボランティア教室です。）



■県立図書館での

臨床実習を終えて

長崎大学大学院 教育学研究科

廣瀬 祥子
平田 亜由美



今回 研究のために様々な体験をさせていただきましたが、その中でも特に印象に残ったのが蔵書の見学です。「県立図書館にはこんな資料もあるのか!」「この人も長崎ゆかりの作家さんなんだ」と、発見と感動の連続でした。どのような資料があるかというのは、県立図書館のホームページで検索することができます。しかし、この発見と感動は、図書館で実物を眺め、手に取り、直接資料を探すことでしか得ることのできないものです。子どもたちにも、このような素晴らしい経験をしてもらいたいと思っています。そのために、作品や作家についてだけでなく、図書館という場所についても興味を持てるような指導をしていきます。



ーシリーズー 100年の歩み 2

1912年（明治45年）6月1日に県立長崎図書館が開館し、2012年（平成24年）に100周年を迎えるにあたり、「シリーズ100年のあゆみ」と題して、本館が歩んできた歴史についてご紹介いたします。

2回目となる今回は、当館の大正期～昭和初期を中心にご紹介します。

前号でもご紹介しましたとおり、開館当初は長崎市新橋町（現在の諏訪町付近）の新橋町小学校の古校舎を県立図書館として使用していましたが、大正4年に長崎公園内（現在地）にありました交親館（元の県会議院兼迎賓館）を改修し、以後昭和34年まで図書館活動をこの木造館で行っていました。

現在地へ移転を機に新しく「個人館外貸出制度」が設けられましたが、資格の制限があり、県民へ自由に公開利用される開かれた図書館活動からは程遠いものでした。本館を利用できる人の資格として「優待券所有者」「官公吏及び官公立学校職員」「国県郡市の議員」「銀行会社の要職にある者」「保証金を納めた者」となっていました。この「保証金」は年額2円（当時の借家賃が月額5円20銭）という高額でした。大正8年に2度目の改正が行われ、「閲覧料」は1回分3銭、10回分で25銭、20回40銭、30回50銭という回数券制度が設けられました。

また個人館外貸出料金も、1回5銭、10回45銭を徴収し、延滞者には1日1銭、10日以上以上の延滞者には、これを超える10日毎に30銭を罰金として徴収していました。この有料閲覧制度は昭和12年4月まで続きました。



交親館当時写真



初代永山館長写真



閲覧回数券

蔵書点検等に伴う臨時休館のお知らせ

下記の期間、蔵書点検等のため休館いたします。期間中は、本の貸出・調査相談・予約の業務を休止します。ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

（※なお、休館中の本の返却については、玄関横の「返却ポスト」が24時間ご利用可能です。）

休館期間：平成23年1月24日（月）～平成23年2月3日（木）

催し物のご案内

「長崎ゆかりの文学展」 （常設展） ※開催中

場所：県立長崎図書館4階郷土資料展示室
時間：9:30～17:00（ただし休館日を除く）
内容：シリーズ 長崎文学散歩 第2回
「林京子、佐多稲子、遠藤周作、白石一郎、
司馬遼太郎、宇能鴻一郎、新田次郎、野呂邦暢」

「長崎ゆかりの文学展」 （第4回企画展）

場所：県立長崎図書館4階郷土資料展示室
時間：9:30～17:00（ただし休館日を除く）
内容：収藏品展「県立長崎図書館を訪れた文人たち
～昭和期の芳名録を中心に～」
（平成23年2月4日～4月10日）

編集・発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号
ISSN 1344-5235 ホームページアドレス <http://www.lib.pref.nagasaki.jp>

270 この広報誌は、環境に配慮した再生紙を使用しています。